

# 校内研修計画

甲州市立菱山小学校

## 1 学校課題

本校の児童は、明るく素直な子どもたちで、児童会活動・学校行事などの行事や体験的学習に一生懸命に取り組もうとしている。また、全校児童が35人と小規模であるため、学年を超えた異学年交流活動が盛んで、休み時間には仲良く遊んでい 少人数学級の利点を活かしながら、授業中の全員発言や話し合い活動の充実などの取り組みを通して、自分の考えを発表したり聞き取ったりする力が向上してきている。

しかしその一方で、固定化された人間関係の中ではきちんとした言葉を介さなくても互いがわかり合えてしまう面もある。言葉を介さない結果、うまく自分の思いが相手に伝わらずトラブルを招くこともある。また、固定化された小集団の中で力関係が生まれ、なかなか自分の思いを表現できない児童の姿も見られ、言葉の伝え方で相手を傷つけるような言い方も目立つ。そのため、上手に自分を表現できる力の向上やコミュニケーション能力の育成が課題の一つとなっている。また、与えられた自分の役割は果たそうとする姿は見られるが、役割以外で場面に応じて必要とされることに対して自ら行動に移そうという自主性が見られないことも課題にあげられる。自分の役割はもちろん、さらには、周りに目を向け、気づき、行動しお互いに支え合う良さを実感させていくことも必要とされる。

そこで、今年度は道徳科に焦点をあて、一人一人が道徳的価値のもと、自ら感じ、考え、他者と対話、協働しながらより良い方向を目指す資質・能力を育てていきたい。

## 2 研究主題

主 題 「主体的に学習する児童の育成」

副主題 道徳科における対話的な学びをつくる授業の工夫

## 3 主題設定の理由

新学習指導要領では、「育成すべき資質・能力」として、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力 人間性等」の三つに整理し、その実現のためには、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」が行われることが必要であるとしている。

3つの学びは、それぞれが分けられるものではなく、他の2つの学びにもつながっている。そこで、今年度は、昨年度同様「対話的な学び」に着目し、その実現のための研究をさらにすすめることで主体的に考える児童像を目指したい。平成29年3月に新学習指導要領が公示され、平成32年度より全面実施となるが、道徳については、平成27年3月に「特別の教科 道徳」（以下「道徳科」）として位置づけられ、小学校では平成30年度から全面実施された。改訂の社会背景には、深刻ないじめ問題やグローバル化、情報化の急速な進展、少子高齢化の進行、科学技術の進歩など、児童をとりまく社会や地域、家庭の変化があげられる。また、児童の自尊感情の低さや規範意識の低下、コミュニケーション能力の低下なども問題視されている。そのような中、道徳教育は道徳科を要しこれまで大切にしていた指導内容に加え、現代的な課題等に対応すべく「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため道徳的諸価値についての理解をもとに、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」ことを目標とし、答えが一つでない道徳的課題を児童一人一人が自分自身の問題ととらえ、向き合う「考え、議論する道徳」への転換を図ろうとしている。一人一人が、道徳的価値の自覚のもと、自ら、考え、他者と対話し協働しながら、より良い方向を目指す資質、能力を備えることが重要であり、こうした資質、能力の育成に向け、道徳教育の研究を進めていくことは重要であると考え。

これまでの研究の成果を土台として、道徳科において自分の考えを広げる「対話的な学び」をつくる学習活動の工夫をさらに図っていく。理解したことを他者に説明したり、他者の話を聞いて新たな知識を得たりなど多様な表現による「対話的な学び」の充実を図ることが、児童が身につけた知識や技能を定着させ、物事の多面的なより深い理解に至る。そして、習得した知識や技能を活用して、問題解決に向けた探究活動に効果的に結びつけていく。このような自分の考えを広げ深める「対話的な学び」をつくる学習活動を通して、知識や経験を「自分のもの」とし、学ぶ意義を見だし学習への達成感を味わうことで、より主体的に学習する児童の育成につなげていきたい。

#### 4. 研究の具体的内容与方法

- 「対話的な学び」から学びをより確かに、より深くするための授業展開を検討し、実践する。
- 地域の力を授業に活用できる場面の開発をする。
- 文化祭を地域の力の活用や児童による学習したことの効果的な発信の場にするための内容及び運営の仕方を研究実践し、改善を図る。
- ・3つの柱から研究活動をすすめる。

##### 【授業づくり・授業改善】

- ①「対話」を通した学びをつくり、自分の考えを広げ深める力を育成する授業づくりの研究
- ②授業の構造化

##### 【学級・集団づくり】

- ①Q-Uを活かした児童理解と学級集団作りの研究
- ② 個の力を伸ばし建設的な集団をつくるために、児童が主体となっていく活動の研究

##### 【保護者・地域との連帯】

- ①家庭学習への取り組み方法や保護者への啓蒙
- ②学校支援ボランティアとの連携

#### 5 年間研修計画

研究テーマ	教科領域等	研究主任 相澤 由佳			
		担当者	学年	授業の時期	TC要請
「主体的に学習する児童の育成」  道徳科における対話的な学びをつくる授業の工夫	・校内研の主題・内容・年間計画の決定 ・児童の実態把握(Q-U検査・NRT検査) ・ブロック研究	研究主任 各担当		4月	
	・K13法による児童の実態の分析 ・甲州市「確かな学力」育成Pの取組の提案 ・各ブロックでの今年度の取り組み	研究主任 各担当		5月	
	・道徳科の授業づくりの研修	研究主任		6月	○
	・一人一実践について(授業構想) ・一学期の実践見直しと改善	研究主任 各担当		7月	
	・教育課程研究(還流)・全国学力の分析 ・甲州市「確かな学力」育成Pの取組	各担当		8月	
	・ブロック研究 ・「確かな学力」育成P校内部会	ブロック長		9月	
	・研究授業 ・授業の検証	授業者 研究主任		10月	○
	・K13法による児童の実態の分析 ・学習会	各担任 研究主任		11月	
	・甲州市「確かな学力」育成Pの取組	各担当		12月	
	・ブロック研究(成果と課題)	ブロック長		1月	
	・校内研究全体の成果と課題	研究主任		2月	
	・次年度教育課程の編成 ・研究紀要作成	教務主任 研究主任		3月	